



登山前に行った植樹講習会の様子



神代曙の苗木



山頂付近で行われた植樹の様子

光城山1000人 SAKURA プロジェクト始動

100 年間愛した桜を、100 年後の子どもたちにも…。今、老木化が進む光城山の桜、通称「昇り竜」を次代に引き継ぐ取り組みが行われています。

次代につなげたい
光城山の桜

登山道の桜の再生へ
市民主体のプロジェクト

身近な里山として愛されている光城山（標高912メートル・豊科光）。登山道に沿って植えられた桜は、麓から頂上へ咲き昇っていくことから「昇り竜」にも例えられています。桜の開花時期には多くの花見客でにぎわいますが、近年、桜の老木化が進み、植え替えの時期を迎えていました。

平成26年4月、光城山の桜を次代に継承しようと、市民が主体となり「光城山1000人SAKURA（桜）プロジェクト」が発足。桜の植え替え計画のほか、自然環境の保全、里山の歴史・文化を継承するための取り組みが始まりました。昨年度は植樹作業の準備として、新たな桜の品種の選定や植樹方法など調査・研究が行われました。

一斉植樹に市民など
約480人が参加

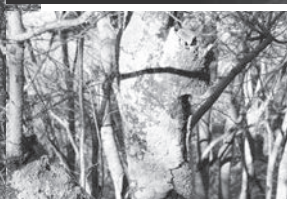
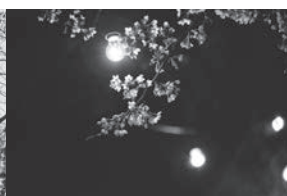
市制施行10周年記念事業として、桜の一斉植樹が11月28日、光

城山の山頂周辺で行われました。冷え込む山中での作業にもかかわらず、保育園児から70歳代まで約480人が参加。光城山登山口で行われた式典では、桜の記念植樹が行われました。また「10年後のわたしへ」と題し、参加園児から中学生が綴った手紙を詰めたタイムカプセルが植樹した桜の横に埋設されました。式典後、参加者は、思い思いのペースで山を登り、今回の植樹場所である山頂周辺で作業を行いました。

満開の桜を思い描き…
300本を植樹

山頂ではプロジェクトメンバーの説明を受けながら、参加者の手で1本1本桜が植えられていきました。植樹後は鹿による被害を防止するため手製の防護柵が設置されました。

植樹した桜は神代曙（ジンダイアケボノ）という品種。ソメイヨシノよりも病気にかかり難く、濃い花色が特徴です。この日、植えられた桜は300本。開花は5・6年後を見込んでいます。



【左】花見客でにぎわう春 【中上】桜の開花に合わせライトアップされる登山道 【右上】散策ルートを示す案内看板 【中下】100 年たち樹勢が衰えた老木 【右下】登山口から標高差 300 メートルを山頂に向けて、春には桜の帯が昇っていきます。

